

2021年8月野菜概況

西日本で降水量が記録的に多く、気温低下。東日本太平洋側は多雨、北日本日本海側では少雨。

8月は月初まで野菜全般に荷余り感あり安値基調となっていたが、中旬から台風の襲来や全国的な大雨に見舞われ様相が一変。旧盆の連休後は胡瓜やなす、トマトなど果菜類を中心に入荷量が減少し相場が急騰。下旬は長野産のレタスや白菜にて大雨の影響からイタミや病害が出て数量減となり相場は連日の上昇となった。8月の野菜総入荷量は117,907t(前年比99%)で平年より若干少なく、価格242円(79%)は平年より1割近く安い。金額は28,550百万円(78%)で平年を1割以上、下回った。

だいこんは北海道産が高温・干ばつによる品質低下が生じ数量減。時期的に需要は低く上旬は数量充分だったが中旬は入荷の少なさが目立ち相場上昇。下旬は降雨と気温低下により品質低下が解消され増量し、相場下落となった。総入荷量は平年より1割少なく、価格93円(81%)は平年より1割安。**にんじん**は北海道産が高温と干ばつで生育が伸び悩み細物傾向。数量も少なく上中旬は相場が緩やかに上昇。下旬は降雨と気温低下により肥大が進み数量も増加して相場が弱まった。総入荷量は平年より1割少なく、価格132円(85%)は平年比の1割高。

はくさいは上旬は高気温のため需要なく安値基調だったが、長野産が中旬の大雨後に病害が発生するなどして数量減。旧盆前後の気温低下から量販店が秋商材を求めたことで需要も高まり下旬は相場上昇が続いた。総入荷量は平年より1割多く、価格82円(48%)は平年の2割安。**キャベツ**は群馬産が生育順調で増量傾向、下旬には出荷ピークを迎えた。家庭消費は前年のように伸びず荷動きは鈍め。総入荷量は平年並み、価格74円(45%)は高かった前年の半値の水準で平年より3割近く安い。**ほうれんそう**は8月上旬までの高温・干ばつと中旬の大雨、旧盆の出荷休みの影響で落ち着いた出回り。相場も徐々に強まるが月末は高値疲れで引合い弱まり反落となった。総入荷量は平年より若干多く、価格782円(94%)は平年並み。**ねぎ**は北海道・青森産を中心に生育順調。中旬は旧盆の出荷休みや大雨による収穫停滞で減少。一時的に相場上昇したが数日で数量回復し反落となった。荷動きは鈍い状況が続いた。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格299円(85%)は平年の1割安。**レタス**は長野産で適度な降雨あり前月の干ばつの影響が解消されつつあったが、中旬の大雨後は下葉の傷みや病害が発生し数量減。不足感高まり下旬は連日の相場上昇となった。総入荷量は平年並み、価格141円(60%)は平年並み。

きゅうりは東北産が上旬は順調出荷となり安値となったが、中旬は成り疲れや大雨の影響で数量大幅減。不足感高まり旧盆後は相場が急騰した。下旬も高値で推移したが月末には高値疲れにより相場反落。総入荷量は平年よりわずかに少なく、価格305円(82%)は平年並み。**なす類**は中旬の台風による風害と大雨や気温低下により数量大幅減。不足感高まり相場上昇した。下旬は気温が上がったことで数量回復し相場反落。総入荷量は平年より1割少なく、価格310円(83%)は平年よりわずかに高い。**トマト**は北海道・東北産が上旬は順調出荷となり安値基調も、中旬は大雨や気温低下により減少し相場が高まった。下旬は後続千葉産が漸増。高値疲れにより相場反落となった。総入荷量は平年よりやや少なく、価格314円(90%)は平年並み。**ピーマン**は上旬は岩手産が旧盆のピークに向け順調に増量となったが、中旬からは大雨と気温低下により出方が落ち着き、下旬は他野菜の品薄の影響もあり引合い強く相場上昇した。総入荷量は平年より1割多く、価格308円(66%)は平年より2割以上安い。

ばれいしょ類は北海道産が高温・干ばつにより地上部の倒伏や葉枯れが早くかなりの小玉傾向で入荷量も少なかった。

時期的に需要は低かったが、中旬以降は他野菜の品薄により引合い強まり相場は緩やかに上昇した。総入荷量は平年より2割近く少なく、価格161円(97%)は平年の2割近く高い。**たまねぎ**は兵庫産が高温での病害懸念から出荷前進しつつ中旬に終了。北海道産が漸増するも小玉傾向。数量面では充分だが大玉は少なく引合いが強かった。総入荷量は平年より1割多く、価格102円(88%)は平年の1割安。

【輸入野菜】ばれいしょは輸入時期が国産の端境となる2~7月に限定されていたが、前年から通年輸入が解禁された。前年は米国産が港湾作業の停滞等で少なかったことから、通年輸入2年目となる本年は前年比で大幅増。しょうがは前年にコロナ禍で外食需要が減退していたことや中国・タイ産が天候不順で減産となっていたため、前年比で増。一方、キャベツはコロナ禍で外食需要が減退する中で国産が安値となったため、中国産を中心に前年比大幅減。ねぎもコロナ禍で外食需要が減退する中で国産が安価であることや港湾作業の停滞、中国産の作付減等により前年比大幅減。